

KSKQ

一般社団法人 日本障害者カヌー協会 機関紙

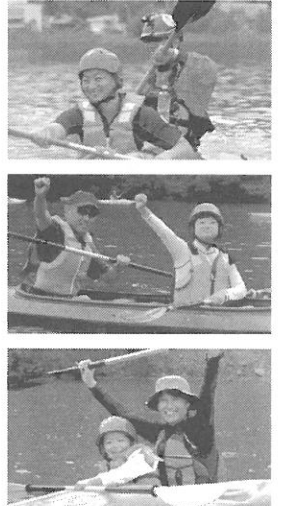
# パラマウント通信

2018/09/02

暑さに負けず  
カヌー頑張るぞ!号

NO.75

TOYOOKA



## 2017 チャレンジカヌー in 円山川に参加して

2017年10月1日兵庫県豊岡市円山川でパラマウント・チャレンジ・カヌー in 円山川(チャレまる)が開催されました。今回は、チャレまる2回目の参加、岸田正子さん、すずさん親子からのレポートをお送りします。



チャレまる参加者  
岸田正子・すず親子

中学1年生ダウン症女兒の母です。昨年続き2回目の参加でした。久しぶりに娘の心から楽しむ姿、やる気を見ることができました。昨年ほど抵抗感が強かったようですが、娘は自分から「今年も行きたい」と言いました。今年はずっと練習からやる気満々。午前中の池での体験で、二人艇に乗り、担当の小林さんと水のかけ合いを「キヤーキヤー」楽しみ、水やカヌーに慣れていきました。午後の待ち時間に、静かに順番を待たされたのも、川に出てカヌーに乗りたいたいという強い気持ちがあったからだと思います。実際の川に二人艇で出

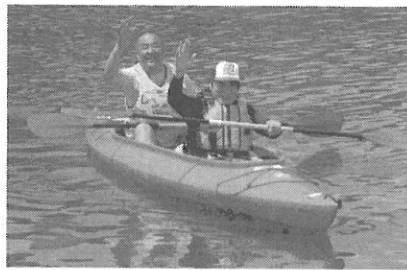
ると、助けてもらいながら自分でカヌーを漕げる感覚を味わい、キラキラしていました。小林さんに「来年は一人で乗れるよ。」と言ってもらえたのも嬉しいびっくりでした。娘も「私カヌーできるで!!」と自慢気でした。親として私自身ができることを、娘が楽しみながらできるように頑張っていき、幸せな時間でした。様々な障害を持つ方が参加されていましたが、個々に合わせたきめ細やかな熱心なサポートがあ



るからこそ、参加者すべてがカヌーに乗ることができるのだと思います。ありがとうございました。



OSAKA



「全員が参加者であり、スタッフでもある」  
大阪パラ楽しんでできました



大阪パラ参加者  
安部 史織

2018年6月16日〜17日に大阪府立青少年海洋センターで、パラマウント・チャレンジ・カヌーin大阪が開催されました。今回は参加者の安部史織さんからのレポートをお送りします。

6月16日(土)、17日(日)の2日間、大阪府立青少年海洋センターで開催された「第15回大阪パラマウントチャレンジカヌー」に参加してきました。梅雨時ということもありお天気心配でしたが、両日とも抜けるような青空でまさに絶好のカヌー日和でした。

開会式で大会の趣旨や注意点について説明を受け、ライフジャケットを着る。初めてのの方はパドル講習を受けて、熱中症対策のための飲み物と水鉄砲(一)を持ったなら、いよいよ乗艇です!

まずは堤防の内側でパドルの扱いに慣れます。海洋センターの利用者は私たちがではないので、事故にならないよう周囲の状況を確認しながら漕が

なければなりません。その練習に水鉄砲が役立ちました!どこから飛んでくるかわからない攻撃を避けたり、逆に当てるために移動するうちに、楽しみながら操作に慣れることが出来ました。

集合して記念写真を撮った後、みんな沖を撮って漕ぎ進みます。ちやぶちやぶと心地よい波に揺られながら、30分ほどのミニツーリングを楽しみました。

ほどよい疲労と空腹感、そして達成感を感じながら上陸した私たちが、そこにさらなるチャレンジが待ち構えていました。なんと競技用のパラカヌー艇に試乗させて頂けるといいます。もちろん私もチャレンジ。最初は思うように

バランスが取れず前に進むのが精一杯でしたが、慣れてくるとそのスリルとスピード感が本当に楽しい!貴重な体験をさせて頂きました。

このイベントでは艇の移動や乗艇のサポートはもちろん、夕食のBBQの準備から片付け、宿泊場所の掃除に至るまで全ての仕事を全員で協力して行います。開会式の説明にあった通り、まさに「全員が参加者であり、スタッフでもある」のです。

年齢も性別も障害のあるなしも関係なく、みんなが自分出来ることを探して積極的に動く。それが自覚と責任を持って行動し、本当の意味で他者を思いやる。そうしてこのイベントの楽しさと安全性が保たれている

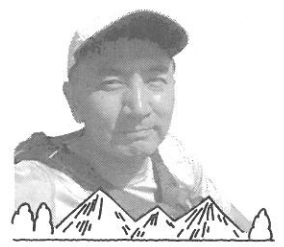
のだと実感しました。来年以降もぜひ、時間を作って参加したいと思います。



# KASUMIGAURA

## 障害者が安心してアウトドアを体験できる インフラが揃う霞ヶ浦パラチャ

2018年5月6日、茨城県土浦市霞ヶ浦で、パラマウント・チャレンジ・カヌー in 霞ヶ浦が開催されました。昨年までは誰でも楽しもう霞ヶ浦こどもの日大会として開催されておりました。同場所には4月に日本障害者カヌー協会の拠点が完成しての初パラチャになります。今回は参加者の瀬口宏さんからレポートをお送りします。



霞ヶ浦パラ参加者  
瀬口 宏

私は2009年の夏に事故で脊髄を損傷し、以来車椅子での生活です。カヌーは20歳の頃から始め、車椅子生活後も続けています。

車椅子の障害者がカヌーを体験するには、たくさんのハードルがあります。そのひとつが水辺へのアプローチ。海だと砂浜や岩場、川だと玉砂利の河原を車椅子で越えていかなければ水際に行けません。

このたび霞ヶ浦のラクスマリナー内に設けられた日本障害者カヌー協会の新しい拠点は、水際までバリアフリーで、車椅子でスムーズに移動できます。カヌーに乗り込みやすい低い棧橋も設置されています。

さらにここにはバリアフリーのトイレやシャワー、用具を収納する倉庫、そして障害者でも体験可能な安定性のあるレクリエーションカヌーが数多く用意されています。パラ競技用のレーシ

ング艇も体験できます。マリナー内にはキャンプ場もあります。カヌーを漕いだ後、キャンプやBBQも楽しめます。障害者が安心してアウトドアを体験できるインフラが整っていると感じました。

ここで5月6日に開催されたパラマウントチャレンジカヌー in 霞ヶ浦へ参加してきました。夏のような陽気でしたが、水上は爽やかなそよ風が吹き、絶好のパドリング日和。

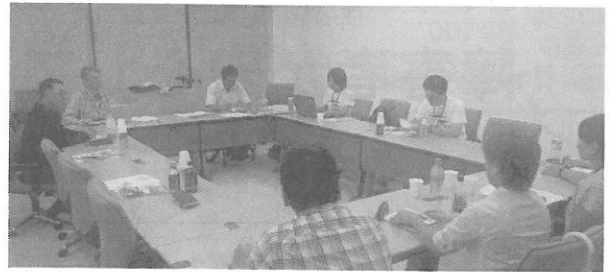
初心者の方も多かったようですが、協会のスタッフの方々が万全の体制でサポートしてくるので、みなさんすぐにカヌーに慣れていたようです。午前中は思い思いにパドリングを楽しみ、ときにはビルジポンプで水をかけ合ったりと盛り上がりつつありました。やはり広い水面は気持ちいいですね。

午後はミニ運動会。障害者部門、スタッフ部門などに分かかれ、それぞれ熾烈(?)なレースが繰り広げられました。

障害者も健常者も気兼ねなくカヌーを体験できる拠点が関東にできたことは、本当にうれしいことです。今後ここを利用する機会が増えていきそうです。



# 日本障害者カヌー協会 年次総会報告



理事 齊藤 典彦

日本障害者カヌー協会(以下、協会)が、一般社団法人として発足し、はじめての社員総会が開かれましたので、内容を報告します。  
(副会長 齊藤典彦)

## 言葉の説明

総会の報告にあたって、まず冒頭に、協会に関わる方々を表現する言葉を説明します。

③賛助会員の総称。  
②一般社員、  
①正社員、  
④賛助会員の総称。

①正社員…社員のこと。協会の事業に賛同して入会し、代表理事の承認を受けた方々。現在の正社員は16名。代表理事(会長)、理事、監事、各部の部長・副部长、各委員会委員長・委員。社員総会は、正会員の方々で実施。  
②一般社員…協会の事業に賛同して入会した方々。  
③賛助会員…協会の事業に賛同して賛助会員として入会した方々。

1995年から2016年まで、任意団体として運営していた際は、会長、理事、監事、会員、賛助会員という分かれ方でしたので、現在の組織の名称はやや複雑に感じられるかもしれませんが、違和感があるかもしれません。一般社団法人として、法律、定款に基づいた運営をオープンに行うため、社員と会員という分かれ方になっていくことをご理解ください。

## 社員総会の開催と出席者

以下の日時で社員総会を開催しました。

**日時** 2018年6月10日  
(日曜日)14時~16時  
**場所** 日本財団ビル 2F  
第1会議室

## 出席

正社員10名  
(欠席正社員からは議長への委任状あり)

- 吉田 義朗 代表理事
- 齊藤 典彦 理事
- 上岡 央子 理事、事務局長
- 高橋 祐己 監事
- 宮崎 満 普及部長
- 柴山 善邦 競技部副部长
- 岡留真由美 育成委員会委員
- 西 明美 強化委員会委員
- 小山 真 選手発掘委員会委員長
- 北村 博信 ユニバーサル拠点委員会委員長

## 社員総会の内容

社員総会の冒頭、吉田会長より、今日の内容はわかりやすくオープンにしていきたい。今日は、本音で現在の協会について話し合う場になりたい、との話がありました。

社員総会では、2つの議案が報告され、質疑のあと承認されました。

- 一つ目は、平成29(2017)年度事業内容と決算内容。
- 二つ目は、平成30(2018)年度事業内容と予算内容。

平成29年度の事業と決算に関する、主な質問と意見交換は以下のとおり。

**(質問)** クラス分け委員会委員長坂光先生のワークショップはどのような形で活かされているのか。また、国際クラス分け委員になるのか。

**(意見)** ワークショップ受講者から、メデイカル担当1名、テクニカル担当4名の国内クラス分け委員が誕生している。国際クラス分け委員になれるかは未定だが、その方向で進めている。現在、国際クラス分け委員に日本人がいない。国際大会では自国のクラス分け委員がいるかどうかで大きな差がある。選手をきちんとサポートし、選手を守るためにも、日本人の国際クラス分け委員がいることが望ましい。クラス分けをする場面で、きちんと話すために、選手自身もさらに語学力の向上が必要になっている。坂光先生は、国際クラス分け委員の中で評価されている存在。今後、坂光先生に続くPTの方が現れることを期待したい。

**(質問)** 寄付金の額について、説明がわかりにくい。

**(意見)** 決算書作成にあたり、会計ソフトなどを利用

し事務局で分類した内容のくり方方に違う点がある。決算書は税理士に委託して作成している。この内容を元にして理解してほしい。

平成30年度の事業と予算に関する、主な質問と意見交換は以下のとおり。

**(質問)** ストックホルムで10月に開催される世界カヌー連盟(ICF)の大会で、10年に1度開催されるパラカヌーの会議に協会として話す機会が作れたことは素晴らしい。出席のための予算は確保できているのか。またどのような内容の情報を入手しようとしているのか。

**(意見)** 助成金の補助など、予算確保はできている。カンファレンスチームはレクレーショントリハビリテーション。私たちは、今まで海外の事情を知らずに活動を進めてきた。世界大会では、重い障害のある方が、どのようにカヌーで遊び、競技をされているのかを知りたい。障害そのものへの意識が世界各地でどうなのかということも含め、状況を知りたい。現状に至るバックボーンを理解することで、今後の日本での普及活動にも活かすことができる。日本では、障害者がカ

又ー競技ヘトライしようとして、親族に反対されたため断念するという事例があった。水は危険という認識が強く、まだ日本の現状は変わっていない。

協会から世界に向けたスピーチでは、日本では従来、普及と競技が別々に活動してきたが、協会発足後、ひとつの活動になるよう進んでいるという現状を伝えたい。競技のクラス分けについて、ICFが認めている障害は下半身だけ。上半身や知的障害も含めて考えていきたい。

**(質問)** 各地域での普及事業について、計画されている内容が盛りだくさん。また、個々の事業項目ごとに計画があるため、重点取り組みを明確にして進むべき。

**(意見)** 事業項目ごとに、進む方向を決めて活動を計画した。盛りだくさんである点は否めないが、多くの関係者が活動に関わってくれることを期待している。普及活動は、協会会員ではない人をいかに呼び込むかがカギになる。現在、活動を手伝ってくれるスタッフが、協会会員かどうかということを把握しているが、これは各地域からの問い合わせや、各地域での行事を実施

する際、会員には声をかけやすい、という点を優先しているため。

スタッフがかどうかより、実質的な対応が必要との認識もあるが、その一方で会員、非会員の線引きが必要という認識もある。どこがラインなのかは判断が難しい。

スタッフはカメラに関するスキルを持つ人や、障害のある人の社会的な現状を理解している人など、様々な方が不可欠であることは事実。競技についてはスタッフのカメラスキルはしっかりとしているが、パラチャなどの普及活動では、ボランティアに頼っている。ボランティアは非会員であることも多い。遊びの中で、真剣にスキルを身につけてきた方々とのつながりは、協会の財産でもある。今後、協会の活動を広く知ってもらうために、普及や競技の活動内容が伝わる写真や動画を集め、多方面にアプローチしていく。

**(同意)** 協会活動は、カメラスキルを持つ人や、障害を理解している人など、多くの方々、団体を巻き込んで進めていく。普及活動に関しては、スタッフが会員か

非会員かを問わず、大きなくくりの中で、スキル重視で活動していただけるようにする。一方で、育成選手、強化選手サポートなどの活動は、会員に絞って、人の顔が見える活動にしていく。

**社員総会を終えて**

今回の社員総会では、正社員が初めて顔を合わせる場になりました。初顔合わせではありませんでしたが、ベースになっているのは、カメラというスポーツの素晴らしさを理解していること。その上で、パラカメラでの選手育成、選手の活動環境を改善することに對する熱意を強く持っていることや、パラチャでの普及活動の場面で、自分の可能性に気づく障害者の笑顔をもっと増やしたいと強く思っていることが、伝わってきました。

協会活動のフィールドが、全国各地、また世界に向けた活動になっていきつつある今こそ、熱意の共有、顔を合わせたコミュニケーションに加え、日本カメラ連盟や日本障害者スポーツ協会などとの密接な連携を強化していくことが必要になっていきます。これからも、支援をお願いいたします。



**収 支 予 算 書**

自 平成 30 年 4 月 1 日  
至 平成 31 年 3 月 31 日

収 入 の 部 (昨年度比)		
I 助成金収入	円	競技力向上強化費
(1) スポーツ振興センター	25,555,000 (19,504,000)	
(2) パラサポ助成金	11,000,000 (11,741,071)	普及、広告、人件費
(3) 国庫助成金	980,000 (2,10,014)	クラス分け講習会
助成金収入計	37,684,000 (31,455,085)	
II 賦課金等収入		一般会員
(4) 会費収入	400,000 (368,000)	
(5) 寄付収入・協賛	800,000 (1,375,400)	Tシャツ寄付、企業団体協賛金
(6) 参加費収入	4,300,000 (866,571)	海外遠征参加費・普及事業参加費
(7) 雑収益	(20096)	
賦課金等収入計	5,500,000 (2,630,067)	
合 計	42,735,000 (34,085,152)	

支 出 の 部



II 一般管理費	10,358,114 (8,748,426)	
1 人件費		吉田 (強化費)
(1) 役員報酬	4,000,000	上岡 (パラサポ人件費)
(2) 職員給料	3,500,000	社会保険 2 名分
(3) 福利厚生費	2,858,114	
2 業務費	31,838,000 (25,365,623)	
(1) 旅費交通費	24,451,000	海外遠征・国内旅費 (競技部)
(4) 通信費	250,000	文書郵送費等
(5) 器具備品費	2,350,000	競技艇・拠点設備
(6) 印刷費	100,000	機関紙
(7) 業務委託費	950,000	翻訳委託・冊子撮影・冊子制作費
(8) 交通費	1,400,000	普及事業
(9) 普及保険料	45,000	レクレーション保険 1 年分、
(10) 支払保険料	315,000	競技部国内旅行・海外旅行保険
(11) 賃借料	1,070,000	拠点 1 か月 3.5 万円×12 か月分、
(12) 事務用品費	400,000	レンタカー、遠征時競技艇レンタル
(13) 修繕費	50,000	PC・USB・事務用品費
(14) 宣伝広告費	200,000	競技艇修理代金
(15) 誌会費	105,000	JPC 他
(16) 消耗品	150,000	普及、競技部
3 諸税負担金		
(1) 租税公課	2,000	
一般管理費計	42,196,114 (34,114,049)	
IV 予備費	538,886	
合 計	42,735,000	



事務局ニュース  
Vol.03

いつも、日本障害者カヌー協会(以下協会)を支援頂き、ありがとうございます。6月10日(日)に日本財団ビルで協会が、一般社団法人として発足してはじめての社員総会が開催されました。内容は4、5ページで報告させて頂いております。

事務局ニュースでは、ハンガリーで行われた「ワールドカップ・パラカヌー」、石川県木場潟で行われた「1stパラマウントチャレンジ200M競漕in木場潟」、初の東京パラ「パラマウント・チャレンジカヌーinわんダフルネーチャーヴィレージ」、江戸川区で行われたカヌー講習会の様子をお伝えします。

そして次号でのお伝えになりますが、10月5日〜7日、スウェーデンのストックホルムで開催される国際カヌー連盟のパラカヌー国際会議に協会のプレゼンが選ばれました。「リハビリとレクリエーション」が議論の中心、ここに日本の取り組みを発表していきます。

2018  
6/24  
パラマウント・  
チャレンジカヌーin  
わんダフルネーチャーヴィレージ



あきる野市サマーランドわんダフルネイチャーヴィレージ秋川湖で、東京都内で初めてのパラチャが開催されました。朝のどしゃ降りが一変して体験会が始まる時には晴天のカヌー日和! 参加者3名、主催者スタッフも含めると20名くらいのアットホームな体験会になりました。場所の協力を頂きました東京サマーランド様、スタッフを派遣して下さいました東京アーバンカヤック様ありがとうございました。

2018  
6/23  
障害者カヌー講習会(江戸川区)

江戸川区カヌー協会様のお話頂き、障害者カヌー講習会を開催いたしました。内容は、どんな障害があっても一緒に水の上を楽しもう!という基本的なもの。これが一番重要で、私たちが理想とする共生社会をカヌーを通じて伝えていくものです。30名の参加があり、障害当事者からの視点、障害福祉経験者からの視点、カヌーサポート経験者からの視点、様々視点の方からの話も聞けました。私たちの講習会で最も大切な事は、障害者カヌーのサポートだけでなく、障害者カヌーのサポートを通じて普段の生活の中で障害者への配慮が当たり前に行える気持ちを持つてほしいという点です。まだまだたくさんある社会の壁。カヌーという、ハードルが高いと言われているスポーツで障害者と健常者が全国で共生できる環境になれば、きっと日本の共生社会は



難しいことはないはずです。この度は江戸川区カヌー協会皆様ありがとうございました。

2018  
5/26  
1stパラマウント  
チャレンジ  
200M競漕in木場潟



石川県小松市、木場潟カヌー競技場で、カヌーの普及、障害

者カヌーの広がり、パラカヌー競技人口の増加で、インクルーシブな社会を目指すわたしたちが、カヌーを漕ぐ事の楽しさを、参加者全体で共有できる大会、1stパラマウントチャレンジ200M競漕in木場潟を開催しました。規則に縛られない自由なカヌー競技として、パラカヌー選手競技だけでなく、元選手の競技、ただカヌー好きの競技なども開催しました。今回の大会で、改めて「水の上は究極のバリアフリー」を感じました。健常者、障害者、ボートレーサー、パラ選手、サップ、カナディアン、リバーカヤック、皆が一緒に楽しめた大会になりました。

パラカヌー女子 KL1 200m		
順位	氏名	タイム
決勝8位	瀬立 モニカ	59.959
パラカヌー女子 VL2 200m		
順位	氏名	タイム
決勝5位	瀬立 モニカ	01:19.510
パラカヌー男子 KL1 200m		
順位	氏名	タイム
決勝8位	高木 裕太	01:09.000
パラカヌー女子 KL3 200m		
順位	氏名	タイム
決勝8位	加治 良美	57.585
パラカヌー男子 KL3 200m		
順位	氏名	タイム
Semi Final敗退	辰己 博実	49.461
パラカヌー男子 VL3 200m		
順位	氏名	タイム
予選2組敗退	辰己 博実	01:04.964



真も全員お揃いのウエアが映えます。

5月17〜20日ハンガリーのセケドでワールドカップ・パラカヌーが開催されました。今回の派遣メンバーは瀬立モニカ選手、辰己博実選手、加治良美選手、高木裕太選手、濱田美穂選手の5名が参加致しました。今回の大会から、日本モーターボート選手会様の資金支援を頂き代表ウエアを作る事ができました。選手、スタッフの集合写真が映えます。

2018ワールドカップ・パラカヌーinハンガリー

大会情報



# ボランティア講習会は 出合いの一步!

6月10日、京丹波市和知町のクラブハウス和知でパラマウントチャレンジカヌー京都(以下京パラ)のボランティア講習会が開催されました。講習会の様子を事務局の佐井誠がお伝えさせていただきます。



京パラは昔から学生のボランティアが多く、『学生の京パラ』と呼ばれています。近年は兵庫医療大学のボランティアサークルの学生が多く参加してくれ、今年も17名の学生が参加してくれました。

ボランティア講習会は、陸上では、車椅子の名称、使い方を学ぶ車椅子講習。アイマスクを使つての視覚障害の方の介助講習。車椅子の方などが艇へ乗る時に使うフイットイング



アイマスク講習の様子



フイッティング講習の様子



カヌー講習の様子



車椅子講習の様子

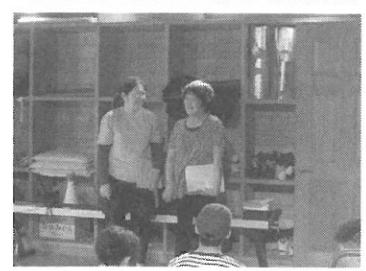
材を名称、使い方、乗り降りへの介助の仕方、学ぶフイッティング講習、大会中で起こりうる熱中症、低体温症、その他の症状への対処について学ぶ講習を行っています。

水上では、カヌー体験をして頂くのですが、カヌーの面白さだけを知って頂くのでは無く、水上の怖さ、ライフジャケットの必要性も学んでもらっています。

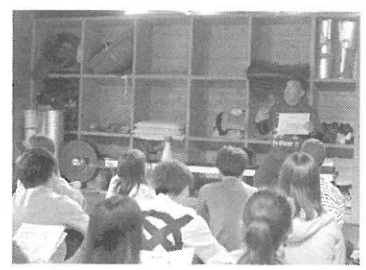
講習会の内容は多岐にわたっていますが、大会の中へは、井尻和美さんに『出合いの人生の拡がり』について講演会を行いました。



パラマウントチャレンジカヌー京都事務局 佐井 誠



井尻和美さん講演の様子



和田浩典さん講習の様子

中に座学も取り入れており、和田浩典さんの発達障害の方へのカヌーでの介助方法は当事者ならではの気づきをまじえて話してくださるので分かりやすく好評です。今年京パラで初めてカヌーを体験して、一気に活動の幅が広がった井尻和美さんに『出合いの人生の拡がり』についての講演会を行いました。

講習会の内容は多岐にわたりますが、大会の中へは、井尻和美さんに『出合いの人生の拡がり』について講演会を行いました。

講習会の内容は多岐にわたりますが、大会の中へは、井尻和美さんに『出合いの人生の拡がり』について講演会を行いました。

講習会の内容は多岐にわたりますが、大会の中へは、井尻和美さんに『出合いの人生の拡がり』について講演会を行いました。

講習会の内容は多岐にわたりますが、大会の中へは、井尻和美さんに『出合いの人生の拡がり』について講演会を行いました。

講習会の内容は多岐にわたりますが、大会の中へは、井尻和美さんに『出合いの人生の拡がり』について講演会を行いました。

# イベントカレンダー

詳細、更新情報は協会HP  
イベントカレンダーをご覧ください



開催日	イベント名	開催地
8月17日(金)~27日(月)	パラカヌー世界選手権大会	ポルトガル
9月6日(土)~10日(月)	日本パラカヌー選手権大会	石川県
9月8日(土)~9日(日)	パラマウントチャレンジカヌー in 奈良	奈良県
9月16日(日)	びわこレインボーカヌー(たんぼぼの会)	滋賀県
9月23日(日)、24日(月)	パラマウントチャレンジカヌー in 山形	山形県
9月30日(日)	チャレまる(パラマウントチャレンジカヌー in 円山川)	兵庫県
10月14日(日)	誰でも楽しもう霞ヶ浦 体育の日大会	茨城県
11月1日(木)~4(日)	長良川長距離大会 兼 育成強化合宿	岐阜県

## 会員更新手続きのお願い



毎年4月は会員資格の更新月になっております。お手数をおかけいたしますが今年度の会費が未入金の方は、下記会費振込先に更新会費2000円の振り込みをお願いいたします。新規入会希望の方は、入会金はございませんので、年会費2000円を振り込み頂き、協会ホームページから入会申込書をダウンロードして頂き、必要事項を記入して協会事務局宛に郵送をお願い致します。

協会が一般社団法人としてスタートして1年が経過致しました。全国各地での障害者カヌーの普及や、パラカヌーの広報までの基盤である財務的な側面は、皆さまの会費によって支えて頂いていております。是非とも今年度も協会会員として継続をお願いいたします。

〈加入者名〉 一般社団法人日本障害者カヌー協会

〈口座番号〉 01020-7-12908

※他金融機関からの振込口座番号 一〇九(イチゼロキュウ)店(109)当座0012908

会員募集の詳細は  
協会HP会員募集ページ  
をご覧ください



## (一社)日本障害者カヌー協会 から会員募集のお知らせ

(一社)日本障害者カヌー協会では、一人でも多くの方に、協会に協力いただきたいと願っています。会員になる資格は特にありません。障害の有無は関係ありません。協会主旨に賛同いただければどなたでもOK。入会にあたっては、入会金はございませんので、年会費2000円を振り込み頂き、協会ホームページから入会申込書をダウンロードして頂き、必要事項を記入して協会事務局宛に郵送をお願い致します。

事務局  
連絡先

〒107-0052  
東京都港区赤坂1-2-2 日本財団ビル4階  
(一社)日本障害者カヌー協会  
電話 03-6229-5440

編集人

〒630-0201 奈良県生駒市小町493-17 吉田義朗 方

会費  
振込先

\*郵便振替です  
〈加入者名〉 一般社団法人日本障害者カヌー協会  
〈口座番号〉 01020-7-12908  
※他金融機関からの振込口座番号  
一〇九(イチゼロキュウ)店(109)当座0012908

ホームページ: <http://www.japan-paracha.org/>  
協会へのご連絡、お問合せは、ホームページの「協会への  
問合せ」からお願いします。



酷暑と暴風と豪雨が続きます。スポーツ界もあまりいい風が吹いていません。こんな時こそ、川のそば、水の上へ。原点回帰の夏です!  
(さいとー)

豪雨、猛暑と各地で災害が続いています。皆さん、災害の影響、被災の状況はどうでしょうか。こんな時こそ、現在の状況、安否確認などの情報を共有しましょう。繋がりましょう。  
(とほほのみやざき)

今年の京パラは、豪雨の為に2年続けての中止になりました。ここ数年の自然災害は予測がつきません。何か起こった後ではなく、起こる前の準備をしっかりとしないと思えます。  
(マコト)

(マコト)

